



事務所 伊那市西町5016-2 TEL(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 TEL(78)1121
 会長 平澤泰斗 幹事 小河節郎 会報委員長 矢島 豪 第2955回 例会2022.4.14 No.1615



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-22 年度 RI テーマ

Serve to change lives

ソング 君が代・奉仕の理想

四つのテスト 職業・社会奉仕委員会

会長談話 平澤泰斗会長

先週末から初夏のような気温となり、桜も一気に満開となりましたが、今日は雨の予報で、桜の花にとっては無情の雨となってしまいそうです。

本日は入会式がございます。菅靖世さん入会おめでとうございます。これからのロータリーライフを楽しんで下さい。これで女性会員は4名となりましたので、「女性の会」を作って食事会などをしてみたいと思っています。

さて11日にロータリー財団管理委員の三木明(姫路RC)様から「ウクライナにおける人道的危機に対応するための災害救援基金(ウクライナ支援)のお願い」のmailが届きました。内容を要約しますと2018~2020年度まで同期理事のポーランドのピオトルさんから、ウクライナからの難民の数は増え続けており、難民を迎え入れアパートやホテルの部屋を探す努力をしています。様々な物資の需要も高まっておりますが、予算が十分でないで、他の国からの資金を調達しています。ロータリアンが寛大さを示し、更に多くのお金を集めて下さることを願っているそうです。ピオトルさんは避難してきた人々を一人でも多く助けたいとの一心で、老骨に鞭を打ち救援活動に力を注いでいるそうです。この寄付につきまして藤澤国際奉仕・財団委員長と相談致しまして、クラブとして会員全員から一人1万円の寄付をしていただくのが良いのではとの事となりました。21日の理事会に諮りまして進めていきますので宜しくお願い致します。

個人・法人で寄付していただける方は、事務局に連絡していただき、RCの口座に寄付金を振り込んでいただければ、財団に手続き致します。財団への振り込み期日が28日までとなっておりますので、個人・法人で寄付していただける方は25日までに振り込みをお願い致します。この個人・法人の寄付は税制上の優遇措置が受けられます。



なお、地区では200~300万円を災害義援金から支出すると聞いています。お手元にお配りしました財団NEWS号外にもお目通し下さい。

ロシアのウクライナへの侵攻を誰か止めることが出来ないのか、ゴルゴ13が実在したらと思ってしまう今日この頃です。

入会式 伊那美装株式会社

代表取締役 菅靖世様

伊那に来まして30年になります。伊那で生まれたわけではないので、このことを知っているようで知らないことが沢山あります。

なので、皆さんにいろいろ教えていただきながら、今後の会社運営に役立てていきたいと思っております。是非、よろしくお願い致します。

誕生祝 橋爪利行・宮下 裕

三澤 聡・向山賢悟

結婚記念日祝

神山公秀・熊谷勝昌・清水紀光
 小河節郎・吉澤祥文・小松大介
 三澤 聡・本田敏和

在籍祝 神山公秀(41)・平澤泰斗(18)

小河節郎(5)・中曾根隆文(3)



幹事報告 別紙をご覧ください

出席報告 会員数56名 内出席免除15名
 出席者35名 事前ミーティング0名 出席74.47%

ニコニコボックス

・平澤泰斗・小河節郎

菅靖世さん、入会おめでとうございます。
 ロータリーを楽しんで下さい。

- ・菅 靖世 本日入会させていただきました。よろしくお願ひ致します。
- ・竹腰哲夫 本日小坂さんに卓話をお願ひします。
- ・赤羽弘之 長い間休んでいました。
- ・唐木 章 社長を退任し、顧問となりました。
- ・山崎秀亮 菅さん、入会おめでとうございます。

・在籍祝・ゴルフ部
ラッキー賞
矢島 豪・本比田哲郎
藤澤洋二・増田 清
三澤清美・坂井清彦
小河節郎



卓 話 フォースプレイス代表 小坂吉男様
演題-「体操教室を通して

次世代の子供達に思うこと」

(紹介者 竹腰哲夫青少年奉仕委員長)

今回お話をいただくまでロータリークラブさんのことは恥ずかしながら名前しか知りませんでした。こんな私が今回何をお話したら良いか悩みましたが、私が教室を運営していくなかで、日々感じていることを私なりにお話させていただきたいと思ひます。



現在、伊那市西町に体操教室をスタートさせてから1年が経ちました。会員数も100人を超え、下は4歳から上は40代後半まで、幅広い年齢層の方に通っていただいております。

大会を目指す体操教室ではなく、基礎運動能力の向上を図ることを目的としており、マット運動を基礎に、柔軟体操や倒立、跳び箱、鉄棒などを使って体幹を鍛え、最終目標としてバク転やバク宙などができる身体を目指す教室です。私たちの生活のなかで「場」というのはいろいろありますが、体操教室の名前でもあるフォースプレイスとは、第四の場所という意味があります。第一の場所は自宅、第二の場所は学校や職場、第三の場所はカフェや好きなお店など、いつも行くお気に入りの場所、そして自分を進化・成長させていける新しい挑戦の場所として存在していきたいと思ひ、フォースプレイス体操教室という名前にしました。

私が今回子供たちについてお話させていただくにあたり、自分の学生時代について少し振り返ってみました。私は高校2年生の時に学校を中退しました。小学校の頃から休みがちで、なかなか学校に行けず、いわゆる不登校の生徒でした。勉強が嫌いではなかったし、人間関係も悪くはありませんでした。ただ、唯一朝が苦手で苦労したのを覚えています。そして学校の存在意味をいつも考えている、そんな生徒だったと思ひます。

一年間さまざまな子供たちと接するなかで一番感じたことは、まずほとんどのお子さんが自分

の意思でやりたいと思ひ、入会を決めるかと思ひますが、最終的な決定権は親御様にあるということです。当たり前のことですが、親がやらせたくて通わせたい習い事なのか、自分がやりたいくてやる習い事なのかによっては、成長に大きな違いがあると感じています。それは怒る親、怒らない親によっても違います。

まずはどんな形であれ、本人がやる気を持って取り組んでもらえるよう日々試行錯誤しているのですが、当教室では、毎月一回最終週に体操のテストを設け、レベル1、レベル2というように一つ一つクリアを積み重ねることによって成功体験を経験できる機会を設けています。レベルも一気に上げるのではなく、スモールステップで段階を踏んで行えるようにしています。子どもたちは、できることが増えていくことで自信にもつながり、また、一緒に通うお友達同士切磋琢磨しながら練習に励む姿がみられます。そうした課題を取り組むなかで、初めて会った子たち同士が話せるきっかけになっていたり、仲が深まるきっかけになっています。そして、私の教室では自主性を特に大切にしています。挨拶するときは挙手制を取り入れ、今日行う練習内容も私はテーマを与えるだけで、自分達がやれることを考え、行動させるようにしています。そして分からないことや不安なことなどは最大限サポートをする。そのことによって本人がやる気を持って取り組んでいけております。

たとえ、本人がやりたいくて始めたことでも、できないことが増えていくにつれて嫌になりやめてしまう。ひとりひとり向き合う壁の高さは違うので、ずっと同じ課題に苦しんでいる子もいますが、ひとりひとりに寄り添い、どうすればできるようになるのか一緒に考える機会を与えることで、けっして諦めることなく取り組んでいます。私も気づかされることが多く、いつも子どもたちに教えられています。子供たちが成長していくなかで、親や先生に言われたことだけでなく、自分で調べ考えて行動していくことが大切なのだと感じています。私たち大人もまわりに流されることなく、自分で調べ考えて行動していく重要性を、今一度考える必要があるのだと感じています。

最近の子供たちは私たち大人が思っている以上に成長が早く、また、スマートフォンの普及などで知識も豊富です。これから担っていく子供たちの足かせにならないよう、私たち大人も、日々努力を重ねていければと思ひます。



年次総会 次期役員・理事
委員会構成発表

荒木康雄会長エレクト
第63期の役員・委員が発表された。

